

オバマを二度大統領にした男

David Plouffe



Mr. Plouffe as Mr. Obama gave him a surprise public farewell.

Doug Mills/The New York Times:<http://www.nytimes.com/imagepages/2013/01/27/us/PLOUFFE-2.html>

オリジナルブログ・リンク版 (blog link version)

ブロガー 渡辺 日出男 著

たまたま君の存在を知り、“Audacity to Win”を読んで君の戦略メンタル・モデルに興味を持った。二期目を勝ち取るために君がどのような戦略を採ってくるのか、私のブログは君の戦略を読むというテーマに大半を費やしてきた。君が採るであろうシナリオ（戦略）を予想し、主にニューヨークタイムズの記事にドットを見出し、予想シナリオとの乖離を判断するという予測の基本手法である。

2011年8月21日にオバマ大統領が二期目を勝ち取るとブログ上で正式に宣言し、本格的に君のメンタル・モデルに入り込もうとしてきた。

奇策を採って来るかもしれないとも考え、その予想も公開した。しかし、大半は捨てる結果になった。

しかし、投票日の2ヶ月前、9月30日には、三つのドットから判断してOFAボランティアを燃え立たせるのが君の基本戦略と予測した。それは、多分正しいと思っている。

それにしても、副大統領候補も含むディベート4戦のドラマは私の想定を越す君ならではのものと脱帽した。

惨敗と評されたディベート第1戦が、君かあるいはオバマ大統領が直前に決めた戦略ということは直ぐにわかった。

それは、翌日のブログに書き、さらに君がディベート4戦全体をストーリーとして構築してくると書いた。

攻撃の火蓋はバイデン・ライアン副大統領候補のディベート、そして第3戦（大統領候補第2戦）で君は勝負を決めてくるとも書いた。ディベート最終戦までもつれるようなら、仮に選挙に勝っても戦略家プラウの負けとすら書いた。

君は、きっちりタウン・ホール形式の大統領候補ディベート第2戦で決めてきた。特に、ベンガジの罨は見事であった。あれで、ロムニー候補にとっては何度でも使えるはずだった材料を完全に封じ込んでしまった。外交がテーマの最終戦でもロムニー候補は全く触れることができなかった。

正直なところ、第1戦惨敗演出の意図は最後の最後までわからなかった。当初は、地上戦に緩みが出ないようにするためと思っていた。引き締め効果もあったことはいくつかの記事から読み取れたが、君の本当の狙いがわかったのは投票日前日（日本時間11月6日のブログ）であった。

この戦略は、正にAudacity（大胆）そのものと思った。

君は、大統領候補同士のディベートたった2戦で、“指導力に欠けるオバマ”という定説を完全に吹き飛ばしてしまった。

リーダーシップが問題と盛んに言われたのは、特に2010年4月20日に発生したメキシコ湾におけるBP原油流出事故の頃からであった。

それから2年半もの間定説のようになってしまったイメージを10月3日（第1回ディベート）から16日（大統領ディベート第2戦）までの僅か2週間弱で払拭したのである。

プラウ、心からおめでとうと言わせていただく。

このまえがきは、大統領選挙の総括として書いた昨年12月6日のブログの一部を引用したものです。本書の全体像を表すものになっているのでまえがきに相応しいと思うからです。

「[We were the change : アメリカ大統領戦総括 \(3/3\)](#)」 (2012.12.06)

Plouffeの発音は正確にはプラッフ (Pluff) ですが、私のブログはプラウと呼んできました。オバマ大統領が二期目を狙った選挙戦の一切をプラウが仕切っているという想定でブログを展開してきましたが、大統領選挙前日のウォールストリート・ジャーナル (WSJ) の記事がその正しかったことを証明してくれました。

「[大統領選挙直前スペシャル \(2/2\) : プラウの計算違い? いや、完璧さ](#)」 (2012.11.06)

既に、「[オバマ大統領を支える戦略家たち](#)」を書きましたので、プラウの性格やメンタル・モデルはかなり理解できたと思っていました。彼のような性格とメンタル・モデルを持つ人は、地位と無関係に組織を動かす存在になり得ます。それが私の想定根拠でした。

私自身は間違いないと自信はあっても、読者がどう受け取ったかは知りません。

多くの人をインタビューしたWSJの証明ならば私のブログに対する信頼も少しは上がったのではないかと喜んでいます。

このオリジナルブログ・リンク版は、2012年11月6日の大統領選の15ヶ月前に当たる2011年8月21日以降の大統領選に関係するブログを日付順にまとめたものです。

選挙結果がどうなるか書いた時点では不明です。予測した戦略も正しいかどうかは後にならなければわかりません。予測が外れれば恥ずかしいという気持ちもあります。それでも書くのがこの“リアルタイム戦略予測ブログ”の特徴です。

結果が判明してから、あの時こうだった、ああだったと書くのが簡単とは言いませんが、性格がまったく異なります。

現実の競合・競争状況（今回は大統領選挙）の中に自分を戦略家と想定して状況を読み、相手の出方を予想して“自分ならこうする”を考える訓練が目的です。

状況の把握と予測の信憑性確認のために膨大な数の情報を読まなければなりません。このオリジナルブログ・リンク版には、300以上のタイムズを主体とするメディア情報にリンクがあります。電子出版だからこそできることです。

アメリカを代表するトップ・クラスのコラムニストの意見も紹介しています。下手な英文と自認していますが、私の英文投稿も数多くあります。オバマ大統領やミシェル夫人等々のすばらしいスピーチ・ビデオにもリンクがあります。リスニングの訓練にも使えます。

英語を読み、聴き、戦略を考え、そして自分の意見を英語で書く。

若干高度な総合英語訓練の場でもあり同時に大統領選挙を通じてアメリカの現実を知ることにもなります。

自己研鑽材料として多くの方にお使いいただくことを心から願って止みません。

尚、オバマ大統領二期目の就任セレモニーを記念して2013年1月22日に第一章のみをアップしました。

本日、1月30日に第十章までをアップいたしました。

あとがきは、改めて追加いたします。

第一章 オバマ支持率低迷（選挙15ヶ月前）

「[不気味の谷：uncanny valley](#)」（2011.08.21）

「[二期目をあきらめるのか？オバマ](#)」（2011.09.04）

「[American Jobs Act：オバマの怒りは本物か？（1/3）](#)」（2011.09.13）

「[米国共和党の正体：オバマの怒りは本物か？（2/3）](#)」（2011.09.14）

「[隠れ共和黨員かと思いましたがよ、東谷暁さん](#)」（2011.09.16）

「[妥協から対立へ：オバマの怒りは本物か？（3/3）](#)」（2011.09.21）

「[パクリのオバマ・・・長谷川岳氏（2）：総理大臣甲子園（6）](#)」（2011.09.25）

「[マット・デイモンも知らない真実；地球温暖化をめぐる世界の攻防（3：最終回）](#)」（2011.12.26）

「[転生記念新春特別プレゼント1/2](#)」（2012.01.04）

「[米大統領選どうなる：竹中平蔵、大田弘子の敵は赤ちゃん](#)」（2012.01.14）

（第一章 完）

第二章 Who is David Plouffe ?

ブログ継続読者以外の方は、プラウが一体誰なのかご存じない方もいらっしゃると思え直し、順序を変えて特集します。

プラウとオバマ上院議員（当時）の最初の出会いでの会話に彼の人となりを表すエピソードがあります。

「[オバマ大統領を支える戦略家たち \(4\)](#)」 (2010.05.24)

日本でほとんど知られていないプラウを最初に取り上げたブログです。

「[オバマ大統領を支える戦略家たち \(3\)](#)」 (2010.05.17)

ここから一気に2年半跳びます。

オバマ大統領が二期目を勝ち取り、プラウがホワイトハウスを去りました。2013年1月25日のことでした。

大統領にとってもホワイトハウスの他のスタッフにとっても彼が特別な存在であることがわかります。

「[主席補佐官はどれほど偉いのか？ : How powerful is the White House Chief of Staff?](#)」 (2013.01.27)

「[戦略家に送る数珠の言葉：彼がいなければ、今の私はない](#)」 (2013.01.29)

今度は、2年戻ります。

プラウとオバマ大統領の性格を分析したものです。

「[お金を払って読むジャーナリストのメンタル・モデル：あっ、この顔は](#)」 (2012.02.22)

「[Blood, Sweat and Tears \(プラウ分析\) ; 酒と涙と男と女](#)」 (2012.02.26)

(第二章 完)

第三章 嵐の前の小競り合い；選挙争点（選挙10ヶ月前）

プラウがアクセルロッドに代わってホワイトハウス入りしたのが選挙22ヶ月前。彼の影が見えてきたのは、選挙年2012年になって直ぐでした。

「[外交力とインナー・サークル：東大にルートは？](#)」（2012.01.16）

ニューヨークタイムズのコラムニストの一人、モーリン・ダウド（Maureen Dowd）さん。彼女は共和党支持者。この時期、彼女が連続して書いたオバマ大統領批判は私にとって大いに役立ちました。優れたジャーナリストが、私とは逆の立場からオバマ大統領の行動様式を分析しているからです。

政治思想は異なりますが、私は辛辣でウィットに富んだ彼女のコラムのファンです。

ジャーナリストやコラムニストのリング外の戦いがこの時期から過激になります。オバマ大統領の性格・資質と指導力に対する疑問、経済回復の遅れに対する批判が、大統領選挙の争点に絞られていく過程が鮮明になっていきます。

「[Ms. Dowd, you will lose your friends：ダウドさん、友達失くしますよ](#)」（2012.01.23）

「[本当は怖い裸のバンビ：Hard ass bambi from Chicago](#)」（2012.02.05）

「[どうするプラウ？：米失業率低下と対日圧力](#)」（2012.02.08）

「[Obambi背水の陣：背筋を凍らせて笑いましょう](#)」（2012.02.10）

「[大きな政府、小さな政府：収斂の法則](#)」（2012.03.14）

「[総理大臣の覚悟：その時あなたは？（1/3）](#)」（2012.03.26）

「[総理大臣の覚悟：その時あなたは？（2/3）](#)」（2012.03.27）

「[総理大臣の覚悟：その時あなたは？（3/3）](#)」（2012.03.31）

（第三章 完）

第四章 攻撃開始 (選挙7ヶ月前)

オサマ・ビン・ラディン殺害で一時上昇したものの二期目を獲得した歴代大統領の支持率には依然として手の届かないオバマ大統領。

二期目は難しい。

主要世論調査の共和党有利という大勢の中で、プラウの先制攻撃が始まります。オバマ勝利のためにプラウがどんな戦略を採ってくるか解き明かそうとする私も息が抜けない状態になりました。

「[What is Social Darwinism? : オバマの殴り合い](#)」 (2012.04.05)

「[消去法 : プラウ \(David Plouffe\) の戦略、枠外の一点](#)」 (2012.04.09)

「[消去法検証 \(1\) : Huffington Postの分析](#)」 (2012.04.11)

「[金融封建主義 : フランス人経済学者のアメリカ分析](#)」 (2012.04.19)

「[何という男たちだ : Fiercely strategic they are](#)」 (2012.05.02)

「[Obama is beast : 消去法検証 \(2\)](#)」 (2012.05.17)

ああでもない、こうでもない必死に相手 (プラウ) の思考の中に入ろうとするのは大変疲れます。

そこで、第五章に進む前に一休み (Mid break) しましょう。あなたもリラックスしてください。

「[私でも謙虚になるいい話](#)」 (2012.05.24)

(第四章 完)

第五章 共和党のオバマ攻撃加速とプラウの反撃 (選挙4ヶ月前)

ロムニー氏が共和党大統領候補指名を受ける共和党大会が8月末、オバマ大統領が指名される民主党大会が9月初旬。

両陣営の中傷合戦が泥仕合の様相を呈します。

大統領選挙と同時に上院、下院の選挙も行われるため議会選挙立候補者の選挙運動の成り行きが大統領選挙にも大きく影響します。

憲法が認める銃器問題、レイプに係る墮胎問題、同性結婚問題等々、私たち日本人にはなじみの薄いアメリカの文化と政治をめぐる共和党、民主党候補者の言動がメディアを騒がせます。

そこに大統領選最大の争点である経済と失業率、そして財政赤字問題がオバマ陣営に重く押し掛かります。

アメリカ全土が、選挙一色に塗りつぶされた暑い夏。

党大会までの2ヶ月間を一気にお読みいただきます。アメリカの現実を知るチャンスでもあります。

「[Gunwalking、Gunrunner、Operation Fast and Furious : 見た単語なのに意味不明](#)」 (2012.06.27)

「[オバマ対ロムニー僅差の理由 : 司法長官議会侮蔑罪](#)」 (2012.07.03)

「[欧米の国民性比較 : Comparison of National Identity](#)」 (2012.07.05)

「[完璧な消去法 : オバマ回想録にも書かない超ウルトラ劇場 \(1\)](#)」 (2012.07.08)

「[完璧な消去法 : 回想録にも書かない超ウルトラ戦略 \(2\)](#)」 (2012.07.11)

「[戦略はストーリー \(1/3\) ; 英文を書こう ! 戦略を読もう !](#)」 (2012.07.18)

「[戦略はストーリー \(2/3\) ; ドットと回帰直線だよ !](#)」 (2012.07.22)

「[戦略はストーリー \(3/3\) ; フリードマン氏、あなたも ?](#)」 (2012.07.24)

「[Gaffe ? まだ不足 ? : 9点一筆書き他の一点 \(1/2\)](#)」 (2012.08.01)

「[これならどうだ ? : 9点一筆書き他の一点 \(2/2\)](#)」 (2012.08.03)

[「アメリカの暑い夏再び \(1/2\)」](#) (2012.08.08)

[「アメリカの暑い夏再び \(2/2\)」](#) (2012.08.12)

[「アメリカの大掃除：暑い夏の怪談パート2」](#) (2012.08.15)

[「嘲笑 \(ちょうしょう\) から畏怖に：オバマの評価」](#) (2012.08.21)

[「また、オバマ大統領に棚からぼた餅：自信家のなせる業」](#) (2012.08.22)

(第五章 完)

第六章 共和党大会と民主党大会 (選挙60日前)

ハリケーンに見舞われて一日短縮した共和党大会。屋外から屋内会場に変更した民主党大会。議論百出の共和党大会に較べて民主党大会は完璧な出来栄でした。しかし、その直後リビア・ベンガジでのアメリカ大使殺害事件が発生しました。その対処にアメリカ大統領の指導力論議が湧き上がりました。

「[こんな英語書きたい : should be a slap in the face to all Americans](#)」 (2012.09.09)

「[オバマの二期目 ; 民主党大会の出来栄 \(1/2\)](#)」 (2012.09.11)

「[オバマの二期目 ; 民主党大会の印象 \(2/2\)](#)」 (2012.09.12)

「[何度でも蒸し返されるブッシュの傷 : 11回目の9/11](#)」 (2012.09.13)

「[言論の自由 \(First Amendment\) 騒動 : アメリカ大使殺害事件](#)」 (2012.09.16)

「[R&Rをメッタ切り : "ネオコンの操り人形"とダウドさん](#)」 (2012.09.17)

「[リーダーの条件 : 外向型 \(extrovert\) と内向型 \(introvert\)](#)」 (2012.09.19)

(第六章 完)

第七章 私のオバマ勝利宣言（投票日45日前）

この時期になってとんでもない隠し撮りビデオが公開されました。ロムニー陣営真っ青。それでも依然として態勢はどっちに転ぶかわからない状況が続きます。日本の報道ではロムニー勝利の予想が大勢を占めていました。

しかし、やっとプラウの戦略の全貌を解き明かしたように思ったのが投票日35日前。私は、そこでオバマ大統領の二期目を確信しました。私の中での選挙戦は終わった。そう思いました。ブログにそう書きました。まさか、その後に事件が起るとは思いもしなかったのです。

「[プラウ \(Plouffe\) の仕業か？：恨みを晴らす“とどめの一撃”](#)」（2012.09.20）

「[経済学者の戦い（1/2）：アメリカ大統領選挙](#)」（2012.09.25）

「[経済学者の戦い（2/2）：知られざる真実](#)」（2012.09.26）

「[このブログはすごい：プラウの正攻法](#)」（2012.09.30）

「[Emancipation of Modern Slavery：新奴隷解放宣言](#)」（2012.10.03）

（第七章 完）

まさか、こんなことが・・・アメリカ中が大騒ぎ。勢いに乗るロムニー陣営。しかし、私のプラウに対する信が揺るぐことはありませんでした。

「[Let me introduce Mr. Romney : オバマ惨敗](#)」 (2012.10.05)

「[戦略はストーリー : アメリカ大統領選ディベート](#)」 (2012.10.07)

「[ぐちゃぐちゃの中東状況 \(3/3\) : Beyond Outrage](#)」 (2012.10.15)

「[お前なんかとやってられるか? : オバマ大統領のメンタル・モデル](#)」 (2012.10.16)

「[やっちゃった～、ロムニーちゃん : ディベート第2戦 \(1/3\)](#)」 (2012.10.18)

「[オバマの力技 : オバマ・ロムニーディベート第2戦 \(2/3\)](#)」 (2012.10.20)

「[プラウだ、やっぱり : オバマ・ロムニーディベート第2戦 \(3/3\)](#)」 (2012.10.21)

「[ロムニーちゃん、まだ手はあるの? : 米大統領ディベート第3戦](#)」 (2012.10.22)

「[これ以上いじめないでくださいオバマさん、勘違いしていました : ディベート第3戦結果](#)」 (2012.10.24)

「[だからお前は金持ちになれない : Hurricane Sandy & Mr.Romney](#)」 (2012.10.31)

(第八章 完)

第九章 ハリケーン・サンディと運命の日 (投票日4日前)

やっとアメリカの主流世論調査でもオバマ大統領がやや優勢という見方が多くなりましたが、依然として接戦に変わりはありません。

47%隠し撮りビデオで一時はあきらめかたかに見えたロムニーを支援する大富豪は、ディベート第一戦勝利の後再び潤沢な資金を提供し、ロムニー陣営の追い込みキャンペーンは一層激しくなりました。

しかし、敗戦が決まった途端に今度は負けた犯人捜しに躍起になる始末でした。少なくとも共和党は最後まで負けるとは思っていなかったようでした。

「[この写真がアメリカを変えるか？：イデオロギーなんか](#)」 (2012.11.02)

「[オバマ支援偏向報道は本当か？：産経新聞古森義久氏のメンタル・モデル](#)」 (2012.11.03)

「[大統領選挙直前スペシャル \(1/2\)：支持率統計のトリック](#)」 (2012.11.05)

「[大統領選挙直前スペシャル \(2/2\)：プラウの計算違い？いや、完璧さ](#)」 (2012.11.06)

「[ロムニーの敗因：総理大臣甲子園のために \(1/3\)](#)」 (2012.11.10)

「[オバマ大統領の政策力：総理大臣甲子園のために \(2/3\)](#)」 (2012.11.12)

(第九章 完)

第十章 大統領選総括

プラウの戦略は見事だった。しかし、勝因はそれだけではない・・・

[「戦略があれば読める：Fact Check（ブログ信憑性確認）」](#)（2012.11.15）

[「オバマの目には“人がある”：アメリカ大統領選総括（1/3）」](#)（2012.11.29）

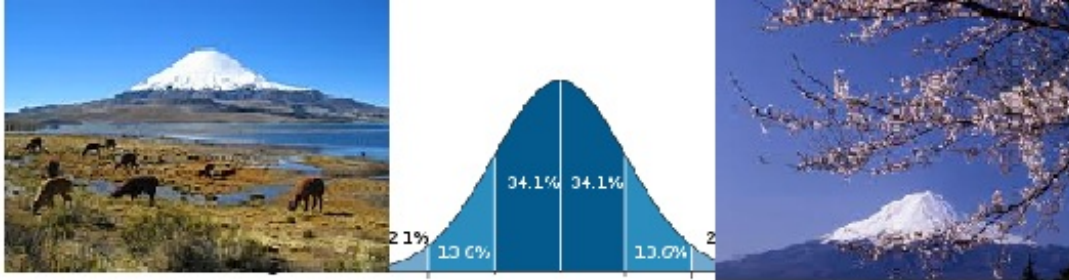
[「オバマの目は・・・“対等”：アメリカ大統領選挙総括（2/3）」](#)（2012.12.01）

[「We were the change：アメリカ大統領戦総括（3/3）」](#)（2012.12.06）

（全編 完）

あとがき

過去4年間オバマ大統領の政策を見てきましたが、そこから判断すると大統領が理想とする社会の富の分布は以下の形状だろうと思います。画像クリックで私の意味するところをお読みいただきたいと存じます。



どちらの国にもベルカーブ型の美しい山があるのに・・・

Both countries have beautiful bell curve shaped mountains・・・

So what? **click anywhere**

オバマ大統領が1月22日行った二期目の就任スピーチは、共和党に対して過度なまでに挑戦的と私には映りました。

そこに、一抹の不安を覚えています。

不安が不安で済めば良いことを祈りながら、このブログであとがきとします。

[「共和党滅亡の危機；角付き合わせるのは止めてくれ」](#) (2013.01.31)

(あとがき 完)